

黒毛和種牛枝肉表面の綿球法及びスポンジ法による 衛生指標菌数の比較

小林光士¹⁾ 古内功二¹⁾ 小野寺 仁¹⁾ 小池史晃¹⁾
辻 芳裕¹⁾ 島村真弓²⁾ 豊福 肇^{2)†}

1) 飛騨ミート農業協同組合連合会 (〒 506-0047 高山市八日町 327)
2) 山口大学共同獣医学部 (〒 753-8515 山口市吉田 1677-1)

(2023年1月11日受付・2023年5月24日受理・2023年9月30日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/9/76_e270_/article-char/ja

要 約

牛枝肉表面の綿球法及びスポンジ法による衛生指標菌数を比較した。2021年3月から一年間、検体数各100件、綿球法は枝肉のもも、ばら(上部)、ばら(下部)、かたばら(各100cm²)の4カ所(計400cm²)、スポンジ法は綿球法の隣接部位を計400cm²拭き取った。検体の綿球法による一般生菌数及び腸内細菌科菌群数の平均±標準偏差(log cfu/cm²)は各々2.04±0.66, 0.47±0.28, スポンジ法は各々3.15±0.40及び0.77±0.62であり、スポンジ法の一般生菌数及び腸内細菌科菌群数は綿球法のそれらと比べて高かった($P<0.001$)。スポンジ法では検知できる警戒レベルの一般生菌数及び腸内細菌科菌群数を綿球法では検出されないことが多いため、今後はスポンジ法によるサンプリングを行うべきであると考えられた。——キーワード：牛枝肉表面, 綿球法, スポンジ法。

----- 日獣会誌 76, e270~e273 (2023)